



AIで変わる流通の現場

事例から学ぶリテールAIの未来

自己紹介

- マイクロソフト認定システムエンジニアの資格を日本最年少16歳で取得。
- 慶應義塾大学卒業後、P&Gジャパンにて、ビッグデータ分析や機械学習関連の開発に従事し、分析チームでは日本人初の管理職に昇進。
- 2017年からは一般社団法人リテールAI研究会にも参加し、テクニカルアドバイザーとして、IT技術を駆使した小売流通業の改革に取り組む。



アジェンダ

- 流通現場でのAI活用の先行事例
- 先行事例からのインサイト
- 今後の展望

海外での生成AIによる顧客体験の変化

- アメリカ：顧客ごとにパーソナライズされる商品説明文
 - ECサイトやアプリで商品を表示すると、検索履歴や購買履歴からパーソナライズされた商品説明文が組み込まれている。
 - 生成AIにより今まで難しかった顧客ごとにコミュニケーションを変えることが可能に。
- インド：自然な対話で商品を検索するチャットコマース
 - アプリ内ではチャットボットと対話しながら商品を選択していく
 - 商品検索からプロモーションのオファーなどシームレスな顧客体験を実現され、接客の代替となっている

西鉄ストア 生成AIを活用した商品ポップ

- オンラインのレビューデータとIDPOSを使って、カレーの30SKUについて、POPを作成。
- 売上は6%増となり、販促をしなくても客単価が向上。
- POP作成のための人員や特別なスキルがなくても、売上を上げられることが証明された。



日本経済新聞2024年6月28日 九州版 朝刊



POP生成のデモ

実際に生成を行う

西鉄ストアの今後

- 第二回に向けて準備を開始
- 対象SKUや他カテゴリーへの拡大
- 前回売れたポップと売れなかったポップを比較することで、精度を改善



台信商店 生成AIを活用したサイネージ

売上げ最大3.3倍、ドコモがスーパーで実証した生成AI広告の効果

2024年07月04日 ■ ビジネス・経済



日刊工業新聞 2024年7月3日

- 生成AIで画像や動画を生成して、サイネージにて放映
- 1週間から3週間かかっていた製作時間が1時間程度に
- 結果、様々な商材を売り込むことができ、効果が実証された。
- 特別なスキルや経験がなくても売場の改善が可能に

台信商店の今後

- お菓子メーカーとの協同
- 青果や鮮魚など当日仕入れとなる商材への適用

dainobou
SUPERSTORE



スーパー細川 AI需要予測と食品ロス削減

AIが需要予測、食品ロスを削減へ...大分県中津市のスーパーで実証実験

2024/01/30 10:06 九州発けいざい

この記事をスクラップする



AIが手がけた需要予測のデータに見入る細川社長

買い物客のポイントカードから得られるデータをもとに人工知能（AI）が需要予測を行い、発注の精度を高めることで食品ロスの発生を抑える実証実験が、大分県中津市に本部がある「スーパー細川」で始まった。予測の結果は卸売り、製造業者と共有し、サプライチェーン（供給網）全体で過剰生産・在庫などの無駄を省いて利益の向上につなげられるかどうか、検証する。（秋吉直美）

読売新聞 2024年1月30日 九州発けいざい

- 地方スーパーにおける食品ロスを削減するため、AIによる需要予測を実施
- 人間と同等か若干上回る発注精度を達成し、店舗での廃棄が減少
- メーカーへの48時間前発注が実現でき、見込み生産が解消



効率化

中津市のスーパーで実証実験

AI活用で“発注作業をゼロに”

実証実験の内容

[AI活用で「商品の発注作業をゼロに」スーパーで実証実験 大分 | 日テレNEWS NNN \(ntv.co.jp\)](#)

スーパー細川の今後

- SKU数を大幅に増やして、発注頻度をさげる次の段階へ
- 10月以降の人手不足、コスト上昇を回避へ



先行事例からのインサイト

1

AIは顧客体験を変える

- 特に生成AIは顧客に直接届き、売上をかえる
- 人手不足でも顧客体験を向上できる

2

企業規模は関係ない

- 自然言語で指示ができるため、実はコストが非常に安い

3

企業価値の向上

- サステナビリティなど、廃棄ロスの削減はコストを減らしつつ環境負荷を低減

今後の展望

- 活用の方向性
 - 顧客体験や売上向上のシナリオへシフトしていく
 - 生産性の向上よりも、販促への投資として成立しやすい
- コスト
 - AIのコストはどんどん下がり続けており、今後も低下していく
- ジャイアントキリング
 - 中小企業でも活用できるので、企業規模に関係なく進んでいく